埼玉・圏央鶴ケ島IC隣接用地、先端産業4社と優先交渉

#関東 #埼玉 #東京

2023/1/10 19:40 [有料会員限定]

埼玉県が先端産業誘致を進める圏央道圏央鶴ケ島IC隣接の県有地（同県鶴ケ島市）

埼玉県が人工知能（AI）やロボットなどの先端産業を誘致していた圏央道圏央鶴ケ島インターチェンジ（IC、鶴ケ島市）隣接の県有地に、鈴茂器工など4社が応募し、優先交渉事業者となったことが分かった。県は今後各事業者と交渉し、県議会での議決を経て正式契約したい考えだ。

県によると、優先交渉事業者に決定したのはすし・盛り付けロボットなど米飯加工機械を製造する鈴茂器工、プリント配線板用絶縁材などを製造する太陽インキ製造（埼玉県嵐山町）、体外診断用医薬品などを製造する日本凍結乾燥研究所（東京・文京）、日本光電の4社。各社ともロボットや自動化技術などを用いた先端産業の研究開発拠点としての用途を想定し、公募した4区画を1区画ずつ使用する。

約10ヘクタールの県有地の隣には、県がロボットなど先端産業の技術開発拠点「SAITAMAロボティクスセンター（仮）」を整備する計画で、各事業者との共同研究などを進める。隣接区画にはIHIの航空機エンジン整備工場が先行稼働しており、航空・宇宙産業分野での連携も模索する。

この県有地は県の農業大学校跡地で、2015年に同大学校が熊谷市に移転した後、県が跡地の再整備プロジェクトに取り組んでいる。